

第6回学校適正規模・適正配置審議会（第2グループ）会議録

- 1 期 日 令和5年5月19日（金）午後6時50分から午後7時50分
 2 場 所 庄内町役場 B棟 会議室2
 3 出席者 門脇伸、齋藤正典、佐藤彰、富樫豊一、菅原由香里、齋藤指導主事
 4 内 容

A	<p>第2グループということで、前回に引き続き、先ほど事務局から今回の協議の方針が示されたわけですので、それに沿って皆さんからご意見をいただきたいと思ひます。それに先立ちまして、Bさんが今回初めてで、今までの審議の経過などは読んでいただいたかと思ひますし、皆さんは前回の審議会で、それぞれの考えを發表した経過もありますが、Bさんから一言いただいてよろしいですか。</p>
B	<p>旧立川地域の3校が統合したときに、教育委員会で實際関わったが、準備に2年間かけました。平成19年、平成20年、平成21年4月が統合ということで。それを振り返ると、学校をなくすということは、その地域、地域のどこに耳を傾けても、怒鳴られる場面があったり、涙を流される場面があったり、断腸の思ひが私の中には今でも残っています。ただ、實際、今、旧立川地域の子どもたちの様子を見ていても、このままではより良い教育環境とは言えなくなるなということは踏まえていますので、地域の方の声や保護者の方の声、そのおじいちゃん、おばあちゃんの方の声も含めて考えなければいけないんですが、實際に子どもたちにとって一番良い教育環境をつくらうとすると、例えばですけど、余目だとか立川だとか三学区だとか二学区だとか今までの既成の地区割ですかね、それにこだわっているとなかなか話がまとまらないなと感じています。ここに示されている庄内町の将来の子どもたちの数もあるので、そこはこの子どもたち、将来の庄内町を担う人材を育成するんだということを第一に考えていきたいなと自分の中では思っていますので、よろしくお願ひします。</p>
A	<p>それでは、①の学習環境、教育活動の場として学校に望むことということで、アンケート結果を踏まえて、皆さんからなるほどなとか、これはちょっとこの点に注目していったらいいのではないかなど、ご意見等あると思ひますが、一度、【資料7】に目を通しながら、いろいろご意見をいただきたいなと思ひますのでお願ひしたいと思ひます。</p>
B	<p>(3)のICT設備については、タブレットを全員持っています。今までみたいにパソコンルームとか、そういうのはいらな思ひます。Wi-Fiの環境が全校にさえあれば、子どもたちがいろいろな場所でタブレットを使って学べるので、そういった意味では設備については部屋とかではなくて、通信環境ですかね、そういったところを整えていくというのが一番なのかなと思ひますし、今ですね、旧余目の学校の中で子どもたちが一番苦しい思ひをしているのは、教</p>

	室の広さです。旧規格で、耐震工事はしたものの広さは変わっていません。昔よりも教科書がB版からA版になって、机も大きくなりました。なので、本校でも30人を超えると、ビシビシで脇を通るところもないという状況ですので、そういう意味ではゆとりある教室というのは、1学級の人数とともに考えていかなければいけないことだと思っています。
A	当然、新しく学校をつくるとなれば、そういうことも考慮しながらということですね。
B	60年前の規格のままなので。
A	アンケートの結果を踏まえると、ゆとりある教室環境ということで、ICT関係では日進月歩で、どんどん進んでいくのでそれに合ったような、その時点で最高の設備なんかを付けるべきだと思いますけども。その他、皆さん方、ご意見ありますか。
C	自分としては、この中で充実した図書環境というのが、思っている以上に少ないもんだなあというところにびっくりしている。他のところに関して言えば、先生のいうとおり、教室環境というような、自分も小学校の息子の授業を見にいったりすると、結構ガチガチで、よくここで先生が教えているなと思えたところもあるので、この辺は変えていく必要はあるのかなと皆さんよく見ているなとアンケート結果を見て思いました。
A	優先順位がそうなったのか、当然、図書環境も重視してもらわなければならないということはあるかと思いますけども。
C	アンケートの選択は二つまでという制約があったからかもしれませんが、そう考えると図書というのは優先順位が下がってしまうのかなというところもありますが。
A	現場としては、図書の重要性はどうですか。今はタブレットという話もありますけども。
B	それは変わりません。庄内町は図書教育、子どもたちが読書に親しむということについては重点的に取り組んでいますので、逆に、離れようとする子どもたちを何とか、子どもたちの健全な発達から考えると文字を読むということについては変えることができないと思います。
A	想像力を養うことは重要な事だと。
C	例えば、今回は町民、保護者、教員と基本的には大人が答えたわけですけど、実際通っている子どもたちだとどういふふうになってくるのかなと興味がわくかなあと思いました。
A	自分たちの学んでいる環境で不満な点とか、もっとも今回は子どものアンケートはないんで。
C	大人の物差しだけじゃなくて、子どもの物差しを入れると少し違った意見も出てくるかと思いました。

A	違った優先順位が出てくるかもしれないけれども。
D	アンケートするとき、子どもにも聞いたらどうかという話も出ていたんですけども、保護者に出したアンケートに子どもと一緒に答えてほしいということだったので、うちは子どもに聞きながら書いたんですけども。子どもの意見を一番聞きたいなと私も思っています。
A	子どものいる親としては、学校環境、教育活動ということになれば、子どもの意見が最優先になる。
B	今の子どもたちは、外遊びをするにしても遊具とか道具がないと遊べないですよ。例えば、自分たちが子どものころであれば、地面に何か書いたりして何かをするというようなこともあったが、今はほとんどそういうことはない。余目地域の小学校は遊具も相当古くなっていて、次々と撤去されて、安全面からです。本当に少なくなっているのが現状で、子どもたちは取られても、ないものは当たり前だから何も言わないんですけども、昔を知っている人は、お父さん、お母さん方は、「俺、あれで遊んだなやの」というような人がたくさんいます。そういう意味では、グラウンド環境も含めて子どもたちが遊べるというような、鉄棒なども含めて運動に取り組める環境は新たな学校をつくるときは、子どもたちから一番リクエストが出てくる部分の一つだと思います。 あとですね。うちの学校では1年生から体育の着替えを男女別々にしています。空いている部屋があるからこそ、そこで着替えができますが、鶴岡市あたりの小学校に行くと更衣室があります。プールにも更衣室がついています。安全という面については、身体的な安全というだけでなく、心の安全も含めるとそういう環境もこれからは必要なのかなと思います。
A	これから新しくするとなれば、いろいろな面で望まれる教育環境というのは、前とは違った格好になるだろうと思います。
C	自分の家の子どもは家で遊ぶことが好きで、外で遊ぶということをあまりしないもので、外で遊ぶ子どもたちって昼間とかどういうふうに遊んでいるんでしょうね。
B	うちの学校でいえば、ブランコと一輪車、竹馬、鉄棒、道具やものが設置されているもの、あと、サッカー、体育館でドッチボールとか。中には鬼ごっこ、前庭の木がいっぱい生えているところで隠れながら走りまわっています。
A	前はもっと工夫して遊んでいたけども、今は、さっき言ったとおりいろいろな道具があって遊ぶような格好になっているということですね。 小学校の適正規模、学級数についてご意見ありませんか。
B	教育長が小体連陸上競技会があったという話をしていましたけど、他校と同じ場で競い合うという場がなかったわけです。子どもたちは普段の子と違う子どもたちと走るわけだから、顔色を変えて走っていました。負けたくない、勝ち

	たいとか、学校で練習しているのと全然違っていました。切磋琢磨というのは大事だなと考えると単学級になった学校だとそれしか世界がないので、クラス替えがあればそれが更新されたりもしますし、1校になってしまうと校内で競い合うことになりますよね。ある意味A校とB校があるというのは、お互い切磋琢磨するにはいいのかなと思いますけど。
A	文科省の方では複数学級が望ましいということで出しているわけですが、挨拶の中でもありましたけども、複数学級といっても80何人しかいないのに、二つに分けても40何人しかいない。ぎりぎり2クラスになってしまう。機械的に半分に分けた場合ですよ。力関係、友達関係もずっと同じ6年間よりはクラス替えがあった方が、子どもたちにとっては望ましいということがアンケートにも出ていますけども。
C	学級数といわれると、やっぱり複数あった方がいいと思いますし、個人的には3クラスというところが最低限必要なのかなあというか、そのくらいあった方が、クラス替えをするときもある程度シャッフルできるし、個人的には3クラスくらいあった方がいいなとは思っています。ただ、1学級は1学級でいい面もあると思いますが、メリット、デメリットがあると思いますが、小学校であろうが中学校であろうが学級数は複数あるというのが理想なのかなと思います。
A	我々の時は、小学校は5クラスだったけども、このままだとずっと単学級になるわけだし、複数学級となれば、最低2校とならざるを得ないのかと思いますけど。前回、第2グループの中では1つの小学校でいいのではないかという人もいましたけども。
B	そうすると通学時間が、庄内町は端から端まで40分かかるので、小学校の場合は引っかかってくるかと思えます。今でさえ立川小で、瀬場からそんなに人は多くないけども、寄りながら1時間くらいで来てるのかな。1時間は1年生が大変で、その代わり途中でトイレを使えるようセットしたり、中には寝ながら来る子もいるんですけども。それが1校だともっと長くはなりますよね。真ん中というところだと4小あたりになるのか、それにしても瀬場からの距離は長くなるし、それについては、高規格道路が伸びるからという人もいますが、私は高規格を速度を上げて通学時間の短縮を図るのは、学校教育としてはそぐわないのかなと思います。
C	そもそもまだいつ完成するかわからないわけですし。 アンケートなど見ると、皆さん2学級なり、中学校だと2学級、3学級と複数を望んでいるんだなというところを見ると、複数ということに落ち着いていくのかなと思いますけど。どこを指針として考えをまとめていくかということが難しいかとは思いますが。
A	指針、基本は子どもたちということになるわけですが、その辺、通学の話も出

	たわけですが、耐えられない時間では、もっと工夫する余地があるのか。スピードアップということになるのかもしれないが。集落をぐるっと回って来るから時間がかかるということもありますよね。例えば、狩川でも何ヵ所かの集落が集まってバス停としていくことで、時間短縮できるということはあるんでしょうかね。
C	バス停自体を各集落ごとでなくて、一定の地域で一つとすれば、少しは短縮できるかもしれない。そこはいろいろやりようがあるのではないか。遠いことは遠いし、時間がかかるのは距離があるので仕方がない。
E	Bさんが言われたとおり、統合するときいろいろ話がありました。可哀そうな部分もあったが、将来的なことを考えるとそれだけで解決されないものもあった。学校が1つとなると、切磋琢磨ということで、例えば中学校では立川と余目で競技できる場合があるわけです。中学校の場合、1校にしてもクラスがいっぱいあれば、クラス対抗となるわけです。そういうような捉え方もしていけば、やはり、小学校というと、自分の気持ちを書いたが、あんまり遠すぎるのではないかという気持ちがあったので、将来的に考えれば2校で、複数クラスあれば交流もできるし、切磋琢磨ができてくるのではないか。中学校は1校でも、クラスが複数あれば、クラス同士の切磋琢磨、クラス替えなどできると思いました。
A	小学校は1校というのは、通学時間的に無理があるのかもしれないですね。
E	児童数をみると、極端に減っている。親御さんもすごい葛藤があると思います。両親だけでなく家族も。ただ、こういう問題は、一歩抜けていかないと、また10年後ということで考えられるかとなると、そこを乗り越えていかないといけないと思っています。
A	乗り越えていかなければいけない先が当たり前の世界になるかもしれない。今までは、これが限界だよなと思っていたものが、そんなものはすぐ通り越して、それが現実になってくる可能性もある。
E	県内だけでなく全国的な話であろうと思う。教室が狭いなんて話は今、初めて聞いた。もし、新しい学校を建てるとすればゆとりある設備など対応は是非、お願いしたい。
C	20人くらいのクラスがいいのかもしれないですね。
B	うちの学校で25人のクラスで、通る道もあるし、1年生19人だと後ろで遊ぶスペースもあるんですけども。今の余目の大きさはそんな感じです。立小スタートしたときは、2学級でスタートしていますよね。
A	急激に子どもの数も減ってきているわけだし。
C	待たなしで、減っていきますね。
D	アンケートの中でも立谷沢地区の人たちも学校を減らして建て替えていくこ

	とに賛成している人が多いですよ。そうなる距離よりも学習環境を考えている人が多いのかなと思いました。
E	先のことも考えると、将来の子どものことだけを考えれば、仕方ないかと捉えている人が大勢いると思う。
C	自分も今、遠いところに住んでいるんですけど。生繰沢なんですけども、清川の奥の方にいるんで、遠い人の意見としては、時間なんて気にしないというか、もともとどこに行くにしても遠いので、酒田、鶴岡に行くにしても時間がかかりますし、それを考えますと、自分の通勤時間など、近い人から見たら遠いよねと見てもらえるんですけど、当事者としてはそんなもんだよねという感じがあるので、意外と余目に1校ドーンと建ったとしても、時間が長くなるよねという部分は慣れていくんじゃないかと思います。
A	長ければ長いなりに、別の工夫で、バスの中でできることなど考えながら。
E	以前もバスの中でできることはないかという意見は出たけど、実現まではいかなかったけども、今はあんまり気にしないで通学している。
A	あまり通学時間は気にする必要はないのだということですかね。
E	トイレなど確保していただければ。
C	学校自体が新しくて魅力的な施設であれば、古くて近い学校に通うよりは、多少距離が遠くても新しくて設備の整った学校に通いたいというのが心情でないかと思います。他の人がどう考えるかはわからないところもありますが。
E	これから先のことを考えると、それにあまりこだわりすぎると、将来子どものためになるかと考えるべきだと思う。
C	遠くなって一番大変なのは、勉強するため、通常の学校の通学はスクールバスが出てくれるので保護者の負担はないが、夜の部活動などの送迎を考えると遠いと負担が増えるということは出てくると思いますが。学校だけと考えるとそこまでという感じはしますね。あとは、これから何年かの積み重ねをやっていくわけですけど、もう学校が建っちゃえばそこに倣ってやっていくだけになるので、意外とそんなに反対してくる人はいないのかなというふうに思っています。
A	アンケートの結果でも、統合した経験のある地域の方が意外と統合もありと考えている割合が多い。
E	意外とそうですね。ただ、なるまでは、大変でした。
B	確かに、統合する前はそうでした。ただ、統合なったあとも「どうですか」と聞きにいくわけですけどもそうすると、皆さん優しくなっていました。
E	以前の統合の会に参加したが、そのときなんかものすごく落ち込んでいたけども、1回目の運動会の頃なんかは、何だということなく自然と溶け込んでいるように感じました。

A	この際、余目、立川という垣根はないふうになっていますので、そうなると小学校も1つというようなこともありかなという意見を出していただいて、設備が素晴らしい学校ができれば、そこに通えば子どもたちの学習環境もよくなるわけですし、学校そのものの魅力も出てくるわけですし、前回も話が出ていましたけども、真ん中にドンと新しい学校を一つ作って立派な学校をつくれば、他からも来る可能性があるというふうなこともありましたが。出生数が80何人というのはコロナのせいばかりではないような気がします。
C	当面の児童生徒数がデータとしてあり、これから急激に増えるということは考えられないが、魅力ある庄内町を情報発信していければ、そう考えると魅力ある新しい学校があればというふうに思います。
A	今ある学校を改修してということではなく、新しい学校をつくった方がということですね。
C	お金をどこからもってくるんだという話になるのかもしれませんが。
A	そのお金のことは、教育委員会で考えることになるだろうと思いますが。そうなってくると、中学校は当然一つというふうな考え方になりますか。小中一貫校という話が旧立川地域から出てくるかと思ったがそういう話もなかった。
B	今も立地条件からしたら小中一貫校みたいなもんですけどね。もう少し交流というのを親御さんは求めているのかもしれませんがね。遊佐小学校が今年の4月にスタートしたわけですけども、すごく大きな学校になりました。中学校は前から一つだったんですけども、最近どうかなと、風の噂ですけど、大変だそうです。化学反応が起きるんでしょうね。五つの学校が一つになったわけですから、庄内町も5地区になりますけども。もし、一つになるのであれば、一つになる前の交流の仕方、慣らし方も準備はしないといけないでしょうし。数年前からの交流、例えば同じ学年になる人たちと一緒に修学旅行に行ってみたりとか。
A	助走というか。
B	新しい学校になるためのソフト面も整えていかなければいけない。統合すると町内にいる先生方を置くんですけども、それでも大変だそうです。
C	子どもたちも大変かもしれませんが、おそらく保護者の方もいろいろと大変なんでしょうね、まとまらないんだろうなというふうになんとも思うんですけど。
A	何か一つ決めるのも大変かもしれないですね。
B	統合になったらなったで時間はかかります。それは当然だと思います。時間かかるからやめようというのではなくて、1校にするのであれば、その覚悟を持ちながらやっていくということになると思います。

C	今、案をつくっているわけですが、10年、20年後、10年後じゃなくてもっと先のことを考えたところでの、配置を考えるとということであれば、最初は何かあったとしても、それが当たり前だというふうになれば。
B	どこでもありますからそういうことは。酒田四中あたりも、昔、小学校が宮浦しかなかったところに高見台とか新しいところが出来て様々な人が来て化学反応で荒れましたね。鶴岡四中が出来たときもそうでしたね。最近では朝陽第四小学校に田川小学校が来た時も大変でした。やっぱり子ども方は生き物です。
C	見てると面白いんですけどね。今の子でもけんかするんだとか、おとなしいだけじゃないんだなということにほっとするところもあります。まとめる人は大変でしょうけど。
A	中学校については一つという意見で一致したかと思いますが、あと小学校、中学校の適正配置の通学時間について、先ほどいろいろ話しましたが、最初は抵抗があるかもしれないが、慣れてしまうとそんなに違和感がないのではないかという話が出たわけですので。
B	立川地域の方から出た意見なので、説得力はあると思います。余目の場合はそういう前例がないわけですから。
F	最初は、自分の地域から何もなくなって大変だと思ったが、さらっと、いっぱい人がいて運動会ができるというのはいいことだと感じた。今となっては、我々の世代もこんなもんかと感じているくらいだ。
A	そうなると1校になると、全部がスクールバスになる可能性も出てくる。
C	アメリカのように、スクールバスを使うか、各家庭で送迎するかという。
A	子どもの数が少なくなっていけば、そういうこともあり得るかもしれない。
C	日本ということで見れば。この通学時間は長いとか感じることもあったとしても、世界的に見ればたいしたことはないのかもしれないですし、比較対象がずれてしましますが。
A	スクールバス通学で朝ごはんを持っていかせてバスの中で食べるようなこともあり得るかもしれない。 最後に学校整備ということになりますが、どのような考え方で学校整備を進める必要がありますかということですが、先ほどの話で1校となれば、設備など最高の学校を建ててもらおうということになるのかなと思います。
C	どういうことを学校整備というのか。
B	例えば、オープンスペースのところもあるし、隣の教室が全部絨毯敷で、今の校舎だと、どうしても寝そべて勉強するということはできないが、絨毯敷のところは、多様な学びの場が校舎の教室から廊下まで流れるようにつながっているような学校もあるんです。先進校はいくらでもあるので、そういうところ

	も見なければいけないとなれば、私は大事な事かなと思います。
E	聞くのも初めてでイメージもできない。
B	中学校なんかは、教科教育教室のような、例えば、1年A組の子が数学だと数学の部屋に行くんですね。そういうのが山辺町にあるんですよ。葉山中って。円形の中でみんなそれぞれ見えるんですよ。校舎についてはいろんな取り組みがありますね。
A	その成果は出ているのか。
B	成果までは、私は確認できませんけども、東京からその学校を視察に来ている人たちもいるとも聞いたことがありますし、それをもとに東京の学校をつくったという中を見せてもらいました。すばらしかったですね。
A	当然、基本は子どもたちのためというわけだから。我々、理解できるのは、例えば、遊びの中で数学とか理科を学んだりする学校があるということは、聞いたことはあるが。
B	1年生の生活科などの授業になると、絨毯的な部屋にテーブルがあって、子どもたちが4, 5人ずつ話したり、作ったり、物を見たりとできる方が学び易かったりするんですよ。いつも机があって、そこに座ってというふうな事よりも少しシチュエーションを変えることができればいいと思います。
A	子どもたちが興味があって、頭に入るというような学習環境というような。
F	私が後ほど、まとめて発表することになりますので、確認させてください。適正規模と適正配置という観点で、学級数については小学校も中学校も複数学級という意見が多かったのかなと思ったんですけども、具体的に何クラスというのがありますか。
A	複数というところです。学校数は中学校は1校だけでも小学校も1校というような考え方かなと思います。
B	学校同士の競い合いというような話もあったかと思いますが。
C	小学校について言えば、私は2校くらいかなと私は思っているのですが。中学校は1校で、小学校は2校でというのが、私のイメージですが、クラス数をどう考えていけばいいのかなというところはありますが。このグループの指針とすれば、中学校1校の小学校は2校というのが望ましいと思います。
A	望ましいことは、望ましいと思います。さっきからいろいろ話し合っ、令和4年度に生まれた子どもが84人しかいないわけなので、かろうじて1, 2年は複数クラスなるけど、3年生からは1クラスになってしまう可能性もあるわけだけども。
E	そういうことも想定していかなければいけないかもしれないけども。
F	複数校はあった方がいいと思うが、状況を考えると1校という可能性も考えて

	いかなければいけないということでしょうか。
A	そういうことですね。当然、設備面とか学習環境を整えて、その時代の最先端で整えていけば魅力度もアップするのではないかとということですね。
C	小学校も中学校もクラス替えができる程度の人数は必要なということが根本の中にはあったので、そこをベースにして考えて何校かと絞っていく流れになるのかな。
F	通学時間は、多少長くても気にならないという話がありましたが。何分ぐらいとか具体的にありますか。
A	今、一番時間がかかっているところで何分くらいあるんだろうか。
B	今、一番かかっているところは、1時間くらいじゃないですか。 それでも、慣れるという立川地域の方の意見があったわけですから。
A	多少時間が増えても慣れれば、そんなに気にならないのではないかなということ。 学校整備については、これから研究する余地はあるということですかね。今、ご意見でヒントをもらったわけだが、子ども第一で、子どもたちにとっていい学習環境を研究していかないといけないのではないかな。
B	他県の話ですけど、学校におじいちゃん、おばあちゃんの施設が併設されているところもあるんですよ。最初からあったわけではなくて、何かを狙ってですね。今はなくなった、南遊佐小学校ってあったんですけど、そこは公民館と中をつなげるという試みもありました。あの当時、酒田市立南遊佐小学校でしたけれども。
C	学校というと、自分たちが習ってきた環境が頭のベースにあるので、そこから広げていくのはなかなか難しい。
A	子どもたちの教育環境としてデータがあって、こういう環境の方が子どもたちの理解度が深まってどんどん頭に入るとか、そういう環境があるとすれば、設備だってそちらの方という考え方もある。今までの前例にとらわれないで、学校整備はするべきだと思うけども。
E	先進事例を見に行って、いいところは取り入れていくべきだ。
G	教育活動の場として、特にどのようなことを望みますかということについては、話し合いの中では、切磋琢磨という言葉があったかなと思いますが。
A	多様な考え方に触れる機会や学び合いの機会がアンケートでは一番多いようだが。
B	庄内町の子どもたちは、転校してくる子どもがいるとすごく刺激になったりする。学校、学校で特色があるので、うちの学校に2年生が転校してきたが、前の学校は鉄棒が常設されていて、グルングルンと回るんですよ。うちの子どもたちは回れません。それを見ながら鉄棒に行く子がいる。庄内町は広いので、

	どこで1校になるかは話は別ですけど、その子どもたちが集まったらそういう部分も出てくるかもしれませんね。
C	自分の考えとは違うことに触れることが、成長することにはとても必要なのかなと思うので。
A	成長するきっかけになる。
B	立谷沢の小学校が複式学級だった時に、直接と間接指導があって、先生1人があっちに行って、こっちに行くと、先生がいない時間があるんですけど、子どもたちが話し合いの進め方が書いてあって、1人の子が仕切って5、6人の子どもたちの話をまとめるんですよ。すごいなと思って、清川でもできるし。立川小学校に1つになって、この良さはどうなるのかなと見ていたんですが、消えました。25人もなれば、先生方が1対25という、そういう授業の仕方が主流になってくるものだから、立谷沢、清川から来た先生もその方法は使いませんでした。
C	複式学級の中には、自分で決断していくという要素がうまく具合にあったわけですね。それが、クラスの数が増えることで協調性は出来たかもしれないが、自分が表に立って決めていこうとする姿勢が薄れていくような。
B	児童数が多くなっても、自分はこうだというふうに自分の意見が言えるということは、私は大事だと思っています。案外、庄内町の子どもたちができないんですよ。7月の初めにリーダー研修会があって、中学校で小学校の児童会の子どもたちが集まってやるんですけども、その時もそれぞれの学校リーダーだからこそ緊張もあるかもしれませんが、そういう場面でどうなるかという、その子どもたちは言えません。言える子と言えない子がいます。
A	その辺は、欧米と違って、日本は小さいころから協調性を求められるせいかもしれない。欧米は自分の意見を言わないと生きていけないようなものだから。そんなことで、まずは第2グループの討議はよろしいでしょうか。
	19:50 終了